

プレスリリース

ベスト オブ ミディ・ピレネー地方



LANGUEDOC
ROUSSILLON
LA RÉGION MIDI
PYRÉNÉES



Projet cofinancé par l'Union européenne.

Action réalisée par le Comité Régional
du Tourisme Midi-Pyrénées.

www.tourisme-midi-pyrenees.com



ベスト オブ ミディ・ピレネー地方 目次

ミディ・ピレネー地方とは

P.3

—水を楽しむ河川観光

ミディ・ピレネー観光スポット特選

P.4

—サイクリングツーリズム

—フォーカス：その他のアウトドアレジャー

P.9

広大なミディ・ピレネー

—ピレネー山脈

P.5

—シャンポリオン、アングル、トゥールーズ＝ロートレック P.10

—自然公園

P.6

—ダルトニャン、ピエール＝ポール・リケ、ノーマン・フォスター P.11

—峡谷と渓谷

—ピエール・スラージュ 空のバイオニアたち P.6

—高原とグラン・コース

—ピック・デュ・ミディの冒険

アウトドアレジャー

—ハイキング

P.7

ミディ・ピレネーのハイライト

—リラクゼーションと温泉

P.14

—サンチャゴ・デ・コンポステーラ巡礼街道—峡谷と渓谷

—ガストロノミー

P.15

—善良な人々の街道

—モノづくり

P.17

—大きなフェスティバル

P.18

ミディ・ピレネー地方とは

ミディ・ピレネー地方の特徴

フランス南西部、大西洋と地中海の間に位置するミディ・ピレネー地方 (Région Midi-Pyrénées) は、文化遺産と風景の豊かさにおいて驚くほどの多様性がある地方で、それぞれに特徴のある8つの県から成り立っています。すなわち、アリエージュ(Ariège)、アヴェロン(Aveyron)、オート・ガロンヌ(Haute-Garonne)、オート・ピレネー(Hautes-Pyrénées)、ジェール (Gers)、ロット (Lot)、タルン (Tarn)、タルン・エ・ガロンヌ (Tarn-et-Garonne) の8県。行政区分の地方圏(州)として、フランスで最も面積が広い地方となっています。ミディ・ピレネーには豊かな文化遺産とライフスタイルが共生しているとして定評があり、独創性とアイデアがある活気に満ちた地方となっています。行政中心地のトゥールーズ市は、フランス第2の大学都市、飛行機の世界最大の飛行機メーカーであるエアバス社の工場がある欧州における航空技術の都となっています。

観光スポット特選 (Grands Sites)

ミディ・ピレネー地方が世界的に知られているのは、25の景勝地「観光スポット特選 (Grands Sites)」があることにもよります。ミヨー高架橋 (Viaduc de Millau)、天文台があるピク・デュ・ミディ (Pic du Midi)、ユネスコ世界遺産に登録されているガヴァルニー大園谷 (Cirque de Gavarnie)、聖母マリア出現の巡礼地ルルド (Lourdes)、トゥールーズ=ロートレック美術館がある町アルビ (Albi)、ヴァラントレ橋のある町カオール (Cahors) を始めとして、コンク (Conques)、ロカマドゥール (Rocamadour)、モワサック (Moissac) など…。

雄大な自然

フランスで日照時間が最も長い地方の1つであり (ミディ・ピレネー地方の日照時間は年間平均 2,000 時間)、この地方にはタルン峡谷 (Gorges du Tarn)、アヴェロン峡谷 (Gorges de l'Aveyron)、ロット川流域 (Vallée

du Lot)、ドルドーニュ川流域 (Vallée de la Dordogne)、ピレネー山脈 (Chaîne des Pyrénées) の最高峰など、変化に富んだ景観の広大なスペースがあります。ピレネー国立自然公園 (Parc National des Pyrénées) と4つの地方自然公園には、整備されたトレッキングコースが全長 28,000 キロ。ミディ・ピレネー地方は、ハイキング、サイクリング、乗馬トレッキング、ウォータースポーツ、ミディ運河などでの河川ツーリズム、ピレネー山脈でのスキーや滑走スポーツを楽しんだりするには最適な地方です。

ミディ・ピレネーのハイライト

アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック(Henri de Toulouse-Lautrec)、ジャン=フランソワ・シャンポリオン (Jean-François Champollion)、ピエール=ポール=リケ (Pierre-Paul Riquet)、ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル(Jean-Auguste-Dominique Ingres)、ピエール=スラージュ(Pierre Soulages)、航空機のパイオニアたち。たくさんの偉人がミディ・ピレネーに遺した比類ない遺産は、彼らの偉業を通して今日も生き続けています。

ライフスタイル

ロックフォール・チーズ、フォアグラ、ケルシーの黒トリュッフ、サフラン、百を数える高品質の国家認証マークを持つ食品がミディ・ピレネー地方を発祥地としています。また、AOP ヨーロッパ保護原産地呼称を持つ 15 のワイン呼称があるというブドウ生産地であり、質の高い手工業の里でもあります。ミディ・ピレネー地方では百ほどのフェスティバルが開催されており、その中にはジャズ・イン・マルシアック・フェスティバル (Festival Jazz in Marciac)、シルヴァネス宗教音楽フェスティバル (Festival de musique sacré de Sylvanès)、トゥールーズのリオ・ロコ・フェスティバル (Festival Rio Loco) などのように世界的に有名なイベントもあります。

数字で見るミディ・ピレネー

人口： 約 290 万人	面積： 45,348 km ² フランスの地方圏で最大面積	地方圏行政中心地：トゥールーズ Toulouse 人口 447,000 人 (出所：仏国立統計経済研究所)
8 県： アリエージュ県Ariège、アヴェロン県Aveyron、 ジェール県Gers、オート・ガロンヌ県Haute-Garonne、 オート・ピレネー県Hautes-Pyrénées、 ロット県Lot、タルン県Tarn、 タルン・エ・ガロンヌ県Tarn-et-Garonne	フランス人の国内旅行先として 第3位 の観光地方 (沿岸部の地方を除く)。 ローヌ・アルプ地方、イル・ド・フランス地方に次ぐ	外国人観光客の滞在先として 第6位 の観光地方。 マーケットシェア 4.6%.
受け入れ観光客総数 1,500 万人	述べ宿泊日数 8,110 万泊	観光産業による雇用創出 44,000 人

ミディ・ピレネー観光スポット特選 (Grands Sites Midi-Pyrénées)

トゥールーズ (Toulouse)、ドウ・メル運河 (Canal des Deux Mers)、アリエージュ・コレクション (Collection Ariège) : ニオー (Niaux)、ル・マス・ダジル (Le Mas d'Azil)、サン・リジエ (Saint-Lizier)、フォワ (Foix)、モンセギュール (Montségur)、ミルボワ Mirepoix、ミヨー高架橋 (Viaduc de Millau)、コンク (Conques)、ヴィルフランシュ・ド・ルエルグ (Villefranche-de-Rouergue)、ナジャック (Najac)、オーシュ (Auch)、マルシアック (Marciac)、フララン (Flaran)、バイズ (Baise)、アルマニャック (Armagnac) ルヴェル (Revel)、ソレーズ (Sorèze)、サン・フェレオール (Saint-Ferréol) のミディ運河 (Canal du Midi) の水源、リュション (Luchon)、サン・ベルトラン・ド・コマンジュ (Saint-Bertrand-de-Comminges)、ピク・デュ・ミディ・ド・ビゴール (Pic du Midi de Bigorre)、コートレ (Cauterets) のスペイン橋 (Pont d'Espagne)、ガヴァルニー園谷 (Cirque de Gavarnie)、ルルド (Lourdes)、カオール (Cahors)、ロカマドゥール (Rocamadour)、サン・シル・ラポピ (Saint-Cirq-Lapopie)、ジャック (Figeac)、ドルドーニュ川流域 (Vallée de la Dordogne)、アルビ (Albi)、コルド・シュール・シエル (Cordes-sur-Ciel)、モワサック (Moissac)、ロデズ (Rodez)


Grands Sites
Midi-Pyrénées

25の観光スポーツ特選はひとつのネットワークを形成しており、これを地方・県・地域の団体が支えています。ミディ＝ピレネーの魅力を広め訪問者にご満足いただくべく、各団体が協力合っています。こうした規模、まとめり、多様性をもった集合体はフランスでも類を見ないものです。



広大なミディ・ピレネー



ピレネー山脈

「ピレネー山脈はフランスの3つの県（オート・ガロンヌ、アリエージュ、オート・ピレネー）とスペインにまたがっています。雄大で飾らないこの地では、峻厳な山々がそびえる横に高地の牧草が広がり、牛や馬が草を食んでいます。結晶片岩とアルドワーズ屋根をまとうて、生命に満ちた渓谷に身を寄せている村々が時を刻んでいます。アクス（Ax）、ベトマル（Bethmale）、リュション、オール（Aure）、ルロン（Louron）、カンパン（Campan）、バレージュ（Barèges）といった渓谷地域では独自性を失うことなく、何世紀にもわたって牧畜文化が育んできた生活様式が今なお受け継がれています。

ミディ・ピレネーにはピレネー山脈の最高峰の山々がそびえています。中でも「3,000メートル群」と呼ばれる、バライトゥス（Balaitous）（3,144m）、ヴィニユマル（Vignemale）（3,298m）、ピック・ロン（Pic Long）（3,192m）、ピック・デュ・ミディ（2,877m）などが挙げられます。こうした山々に彩られた圏谷は、息をのむほど。今ではもはや消え去った巨大氷河によって刻まれた山々は、ピレネー独特の風景のひとつでもあります。ヴィクトール・ユゴーが「ありえないような桁外れなオブジェ」と呼んだ**ガヴァルニー圏谷**は、**ミディ・ピレネー観光スポット特選**の中でもひととき名を馳せています。またコートレにほど近いスペイン橋も素晴らしい**観光スポット特選**のひとつで、滝の流れを楽しむことができます。高地にある湖もピレネー独特の風景を形づくっています。ネウヴィエユ自然保護区（réserve naturelle du Néouvielle）には80の湖があり、青みがかったグレーからアブサン酒のようなグリーンまで微妙なニュアンスをもつ澄んだ水をたたえています。

さまざまなアクティビティの場としてピレネー山脈が垂涎的であることはいうまでもありません。キャニオニング、ラフティング、ハイドロスピード、ヴィアフェラータ、登攀、ハングライダーなど選択肢は無数にあります。スポーツに自信のある方は自転車でトゥルマレ峠（Col du Tourmalet）にトライしてみたいいかがでしょうか。

自然公園

広大なミディ・ピレネーには、グラン・コース（Grands Causses）（アヴェロン県）、オー・ラングドック（Haut-Languedoc）（タルン県とラングドック・ルシヨン地方のエロー県にまたがる）、ピレネー・アリエジョワーズ（Pyrénées Ariégeoises）（アリエージュ県）、コース・デュ・ケルシー（Causses du Quercy）（ロット県）の4つの地方自然公園があります。地域の自然・文化・人間が作り出してきた遺産は、素晴らしくもあり脆くもあります。これら地域では、観光で訪れた方が新たな発見をしたり、地域住民と触れ合うことができるようにと努力が重ねられています。コース・デュ・ケルシー地方自然公園の中には観光スポット特選のひとつロカマドゥールがあり、リボンのように曲がりくねった独特な通りが、町の中心にある聖域の広場へと続いています。

ピレネー山脈でスキー

ミディ・ピレネーには、ピレネー山脈に広がる22のスキー場があります。トゥルマレ・ラ・モンジ（Tourmalet-La Mongie）、サン・ラリ・スラン（Saint-Lary Soulan）、ペラギュード（Peyragudes）、リュション・シュベルバニエール（Luchon-Superbagnères）、プラトー・ド・ベイル（Plateau de Beille）、アクス・トロワ・ド・ドメイン（Ax-3-Domains）ではレジャーが盛りだくさん。ピレネーのスキー場では、ウィンタースポーツ全般（アルパンスキー、ノルディックスキー、スノーサーフ、スノーボード）が楽しめます。こうしたスキー場では長年、変化・設備投資・多様化への取組みがおこなわれてきました。ほとんどの場合フィットネス関連の設備を備えており、山への敬意を抱きつつ、夜も引き続きスポーツを楽しむことができます。これこそがピレネーの真骨頂といえるでしょう。





注目: 現在オーブラック地方自然公園 (Parc Naturel Régional de l'Aubrac) が建設中です。この公園はオーヴェルニュ地方カンタル県の 12 の市町村、ラングドック＝ルシヨン地方ロゼール県の 48 の市町村、ミディ＝ピレネー地方アヴェロン県の 47 の市町村からなっています。

ミディ・ピレネーには、東西 100km に広がるピレネー国立公園もあります。またアリエージュ県のオルリュ (Orlu)、モン・ヴァリエ (Mont Valier)、オート・ピレネー県のネウヴィエユといった自然保護区では、数多くの動植物の固有種が保護されています。保護対象となっている自然区域は、ミディ・ピレネー全体の 2 割にのびます。

峡谷と渓谷

ミディ・ピレネーにはおもに 5 つの渓谷があり、独特の地質学的性質と長い行程、そして多様性を備えた風景が広がっています。その壮大なスケールや歴史的遺産は人をひきつけてやまず、アウトドアレジャーには高い潜在性が見込まれています。カオールの上流に位置するロット渓谷の断崖絶壁、ガロンヌ渓谷の丘陵地、切り立つようにして建つ村々が続くアヴェロン峡谷、迫り来るようなタルン峡谷などは見どころ満載。ロット県北部に 60km にわたって続く観光スポット特選ドルドーニュ渓谷には、自然が織りなす珠玉の風景が広がっています。

アヴェロン渓谷を訪れるべき 2 つの理由

ナジャックとヴィルフランシュ・ド・ルエルグはペアで観光スポット特選のひとつで、アヴェロン渓谷の休息地として憧れの的でもあります。バステード・ド・ルエルグの芸術と文化の地方 (Pays d'Art et d'Histoire des Bastides du Rouergue) の中心をなすのが、要塞都市 (バステード) です。こうした要塞都市は中世誕生して栄えた村々で、ミディ＝ピレネーを彩っていました。ヴィルフランシュ・ド・ルエルグはアヴェロン渓谷の蛇行を抱いてたたずむ町で、要塞によって出来上がった都市化の好例です。荒々しいアヴェロン渓谷の入り口でもあるナジャックの町は、中世の建物が立ち並び、デュ・バリー広場 (place du Barry) へと向かう道が続きます。

高原とグラン・コース

さえぎるものひとつない、延々と広がる高原。アヴェロン県北部に位置するオーブラック高原 (標高 800/1000m) は、フランス南部のきわめて独特な風景のひとつです。モンゴル高原にも比されるこの地を訪れる人は、大きな感動を覚えずにはいられません。ライヨール (Laguiole) ・ナイフで有名なオーブラックは豊かな自然に囲まれ、牧畜と伝統を中心にした生活が営まれています。アヴェロン県南部にはグラン・コース (カルスト台地群) が広がり、ラルザック、コース・ノワール (Causse Noir)、コース・ド・ソヴテール (Causse de Sauveterre) といったゾーンがグラン・コース地方自然公園として保護されています。浸食によって作り上げられたカルスト台地群を取り巻くように懸崖が切り立ち、タルン峡谷、ジョント (Jonte) 峡谷、ドゥルビ (Dourbie) 峡谷を見下ろしています。ドロマイト鉱石が散らばり、背の低い草と蘭が咲き乱れる高原の先には広大な地平線が広がり、異国にいるかのような錯覚に陥ります。テンプル騎士団ゆかりの地として知られるラルザックは、ロックフォール・チーズの生産地でもあり、2011 年にはユネスコにより世界遺産の指定を受けています (ラルザックを含むコースおよびセヴェンヌ (Cévennes) 一帯が指定対象)。



アウトドアレジャー

ハイキング

ミディ・ピレネーには3万 km にもわたる登山道・遊歩道が整備されており、遊歩道 (PR)、登山 (GR)、ピレネー山脈横断大登山道 (GRT) に区分けされています。それぞれ、城館、要塞、ぶどう畑、グルメ、自然保護区域など、地域の特徴やテーマに沿って楽しむことができます。

ミディ・ピレネーには、ル・ピュイ (Le Puy) 街道 (GR65)、アルル (Arles) 街道 (GR653)、その支道ピエモン・ピレネー (Piémont Pyrénéen) 街道 (GR78) という3つのサンチャゴ・デ・コンポステーラ巡礼街道が通っています。ミディ・ピレネーの登山道の中でも伝説的ともいえる GR10 は大西洋と地中海をつなぐピレネー山脈を通る道で、アリエージュ県、オート・ガロンヌ県、オート・ピレネー県を越えて 40 日かけてミディ・ピレネーを横断するというものです。

サンチャゴ・デ・コンポステーラ巡礼街道

毎年さまざまな背景をもつたくさんの人が、ミディ・ピレネーを通過してサンチャゴ・デ・コンポステーラへと向かいます。広大な地とむき出しの自然、静けさと孤独を備えたミディ・ピレネーは、まさに典型的な巡礼街道地方です。ここをル・ピュイ・アン・ヴレー (Le Puy-en-Velay) 街道、アルル街道、ピエモン・ピレネー街道の3つの巡礼街道が通っています。地方内の全長が 135km の巡礼街道には、巡礼ランドマークとしてユネスコから世界遺産指定を受けている 33 の遺跡があります (フランス全体では 76 か所)。代表的なものとしては、コンクの大修道院付属教会、モワサック教会、トゥールーズのサン・セルナン (Saint-Sernin) 聖堂、ロミウ (Romieu) 聖堂、カオールのヴァラントレ橋などが挙げられます。

善良な人々の街道

カタリ派は今なお人々を魅了し続けています。中世に始まったこの宗教運動はミディ・ピレネーで多くの信者を集めたため、この地方は「善良な人々」(とカタリ派の人々は自称していました) の一大拠点となりました。世界は悪魔の手によってつくられたと考え、教会の富を拒絶したカタリ派は、1209 年に派遣された「アルビジョワ十字軍」により激しい迫害を受けます。最終的にはこの十字軍派遣により、オクシタニアがフランス王権下にはいることになりました。

アリエージュ県、標高 1,200m の岩の尖峰に建てられたモンセギュール城の廃墟は、オクシタニアの領主や伯爵の支援を受けたカタリ派の抵抗運動のシンボルでもあります。また「善良な人々の街道」(モンセギュールから出発する遊歩道) もカタリ派の歴史を偲ばせます。フォワ城やロックフィクサッド城 (Roquefixade) (アリエージュ県)、マザメ (Mazamet) のカタリ派記念博物館 (タルン県)、コルド・シュル・シエルの城塞 (タルン県) はじめ、ミディ・ピレネーに点在する多くの場所で、カタリ派の足跡をたどることができます。

フォーカス：巡礼街道沿いの3つの観光スポット特選

モワサック：中世以降巡礼街道の主要拠点であり、ユネスコ世界遺産サン・ピエール (Saint- Pierre) 修道院にある最期の審判を描いたアーチ扉の上のタンパンの壮大な彫刻と中庭を囲む列柱廊が有名です。

コンク：巡礼街道の中でももっとも知名度の高いピュイ巡礼道にある休息地。最期の審判を描いたアーチとスラージュによる近代ステンドグラスで知られるサント・フォワ (Sainte-Foy) 大修道院付属教会、ドゥルドゥ (Dourdou) 川にかかる巡礼者のための橋が、それぞれユネスコ世界遺産に登録されています。

カオール：14 世紀に建てられたヴァラントレ橋およびサン・テティエンヌ (Saint- Étienne) 大聖堂は、巡礼街道上の遺産としてユネスコ世界遺産指定を受けています。





観光スポット特選タイムトリップ編：

アリエージュ・コレクション

アリエージュ・コレクションは歴史をたどる6つの名所の集合体で、先史時代から中世まで、ニオー洞窟からモンセギュール城まで、訪れる人を歴史絵巻の中に誘い込みます。ニオー洞窟、マス・ダジール洞窟、先史時代公園、ミルボワ、サン・リジエ、そしてカタリ派抵抗運動のシンボルであるモンセギュール城を戴くアリエージュ県都フォワが歴史の息吹と感動を今なお運んでくれます。

水を楽しむ河川観光

運河や川を通してミディ・ピレネーのひと味違う楽しみ方をしてみませんか。トゥールーズ出発のクルーズではガロンヌ川から、ガロンヌ河岸、ドラード（Daurade）港、美術学校、16世紀のボン・ヌフ橋（Pont Neuf）など素晴らしい風景を眺めることができます。

トゥールーズからは観光スポット特選ドウ・メール運河巡りも出ています。地中海と大西洋をつなぐこの運河は、ミディ運河（トゥールーズ・セト（Sète）間）とガロンヌ運河（トゥールーズ・ボルドー間）からなっており、前者はユネスコの世界遺産に登録されています。もともと貨物輸送を目的とした運河でしたが、こんにちではさまざまな船が行き交う観光地として変身を遂げました。免許不要の遊覧船をレンタルしてもよし、小型船もよし、宿泊船もよし。優しい木陰のさす河岸、歴史を感じさせる芸術的な建物のかずかず、可愛い水門、トゥールーズ近郊の典型的な南仏の村々、ふと目にする水門管理人の家などを楽しみながら、ゆっくりとした時の流れに身を任せてみませんか。

ひと味違った雰囲気：ミディ・ピレネーは河川航行の地としても名が知られています。観光スポット特選フララン、バイズ、アルマニャックの中心に位置するバイズ川はかつてアルマニャック酒の運輸・取引の舞台であり、現在では60kmにわたって航行が可能です。小型船や宿泊船が行き交うロット川では、心躍るような70kmの旅が待っています。この川は白い断崖に挟まれたサン・シル・ラボビ上流を通して、カオールやその周辺のぶどう畑を潤しています。タルン県ではガバー（gabarre）と呼ばれる独特の平底船に乗って、アルビやミヨー高架橋を楽しむこともできます。

更に詳しく知りたい方は、プレスリリース「ミディ=ピレネーの水辺を楽しむ」をご覧ください。

ウォータースポーツ

逆波の寄せるセレ川（Célé）やドルドーニュ川、アヴェロン川、タルン川をカヌーで下ったり、巨大なレヴーズー（Lévézou）湖にヨットを浮かべたりと、ミディ=ピレネーにはウォータースポーツが満載。設備の整ったレジャー施設が数多くある一方、整備の行き届いた湖や川も人気を集めています。サン・フェレオル湖（オート・ガロンヌ県）、レヴーズー湖（アヴェロン県）、モンタニエス（Mon tagnès）湖やラウザ（Laouzas）湖（タルン県）、ロット川、タルン川、アヴェロン川、ヴィオール（VIAUR）川などには、遊泳監視付きの砂浜が多く整備されています。



サイクリングツーリズム： 楽しみ満載のミディ・ピレネー

トゥールマレ峠やツール・ド・フランスが通るピレネー山脈の峠道には各地から多くの人々が訪れ、「小さな王妃」ミディ＝ピレネーの魅力を一層引き立てています。ミディ＝ピレネーではいたるところでサイクリングを楽しむことができます。切れ間なく続く145kmのドウ・メール運河の緑地帯をはじめとする多くの緑地帯、ロット渓谷やタルン渓谷の自転車専用道路、アヴェロンに広がるフランスでもっとも美しい村々を巡る道など、700kmにわたって道路が整備されています。ミディ＝ピレネーには、1000にものぼる目をみはるような景観や歴史的建造物があります。こうした地を自転車で巡ってみませんか。更に詳しく知りたい方は、プレスリリース「ミディ・ピレネーのサイクリングツーリズム」をご覧ください。

最近改修工事が行われたトゥールーズ＝ロートレック美術館は、アルピの親善大使のような役割を果たしており、来館者数は毎年175,000人近くになっており、地方にある美術館としてはトップレベルの位置を占めています。



フォーカス： その他のアウトドアレジャー

一般向けのものから過激なものまで、アウトドアレジャーを楽しもうと多くの人々がミディ＝ピレネーを訪れます。40にのぼる当地最上のゴルフ場を回ったり、世界的に知られるパラグライダースポットラルザックの断崖からパラグライダーで空中散歩を楽しんだり、コース・デュ・ケルシーの地下迷路のような洞窟を訪れたり、各県に広がるあるいはフランスとスペインにまたがる道を馬で巡ったりと、さまざまな楽しみを提供しています。

ミディ・ピレネーの偉人たち

トゥールーズ・ロートレック、スラージュ、シャンポリオン、ダルタニャン。

この地方の生んだ芸術家や偉人たちの軌跡をたどってみると、彼らの生まれた街や村の美しさが姿をあらわしてきます。

見どころ：

スラージュ美術館

アヴェロン県ロデズで2014年5月31日に落成したスラージュ美術館の開館は、国際的な注目を集めました。この美術館では世界的な名声を誇る才能豊かなスラージュを紹介するとともに、現代アートの中でもずば抜けて斬新で力強い作品群を展示しています。彼の故郷であるミディ・ピレネーは、この類を見ないコレクションや宝石箱のような場所を提供できることを大変誇りにしています。スラージュ美術館の構想が生まれたのは2005年。この年、彼と妻のコレットはグラン・ロデズ都市圏共同体に500の作品や資料を寄贈することにしました。4,000万ユーロ相当の桁外れの寄贈には、コングのステンドグラスに向けた習作や全版画作品、紙の上に描かれた多数の絵画（フルミの果皮を用いたもの含む）、画布の上に描かれた絵画、無数の資料（書籍、カタログ、書簡など）が含まれます。ただちに「フランス美術館（ミュージ・ド・フランス）」の認証があり、これに見合った収容施設を提供しようと自治体を選んだのが、砂岩製のレース飾りのような鐘楼がそびえたつノートル＝ダム大聖堂のすぐそばの土地でした。

更に詳しく知りたい方は、プレスリリース「ミディ・ピレネー地方の画家とミュージアム」をご覧ください。

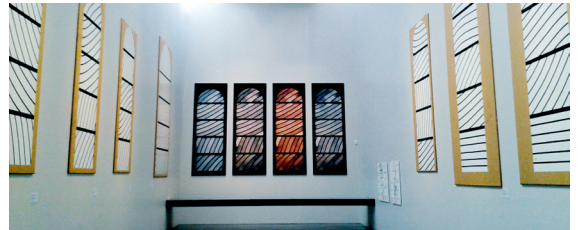
見どころ：

トゥールーズ・ロートレック美術館 (Musée Toulouse-Lautrec)

ベルビ宮殿（13世紀）はトゥールーズ＝ロートレックの最大の公共コレクションを収蔵し、デッサン、絵画、リトグラフ1000点を展示しています。パリのキャバレーや売春宿、19世紀のアーティストや踊り子。生まれ故郷アルビのように鮮やかに輝く作品群は、私たちをこの画家の世界へと誘い込みます。改修工事により生まれ変わった美術館では、わかりやすくエレガントな展示方法が採用され、新たなアプローチを通じて彼の足跡を学術的にたどることができます。

スラージュ

ピエール・スラージュは1919年12月24日ロデズで生まれました。現代フランス画壇の巨人とされ、世界各地の90以上の美術館で紹介されています。黒と黒以外の独自の世界を自在に操り、数多くの作品を発表しています。中でも紙に「フルミの果皮からとった染料」で描いた作品や、観光スポット特選コングのサント・フォワ大修道院付属教会を飾る素晴らしいステンドグラスなどが広く知られています。彼の作品には、現代アートマーケット最高クラスの値段がつけられています。考古学、民族誌学、歴史、美術に関係する大きなコレクションも所蔵しています。



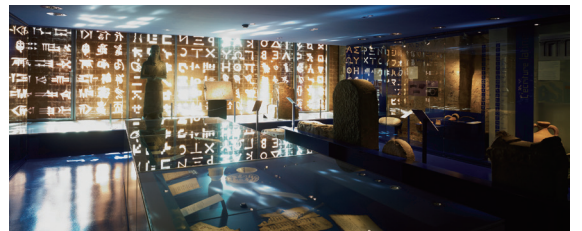
トゥールーズ・ロートレック

タルン県ベルビ宮殿 (Palais de la Berbie)：レンガ造りの城壁が、巨大な鐘楼をもつサント・セシル (Sainte-Cécile) 大聖堂と競うようにしてそびえています。司教都市アルビはユネスコ世界遺産に指定されている観光スポット特選のひとつですが、トスカーナのような雰囲気と芸術への愛情が見事に融合した街でもあります。1864年にこの地に生を受けたトゥールーズ＝ロートレックにとって、これ以上の魅力をもった街は他にはなかったでしょう。その才能ははるか日本でも評価されましたが、病弱だった彼は芸術に身を捧げ、19世紀末パリでボヘミアン的な生活を享受しました。自らが住み、印象派の画家たちにも愛された「モンマルトルの体現者」であった彼は、ムーランルージュをはじめとするパリのキャバレーや劇場を描いた絵画やポスターで一世を風靡しました。

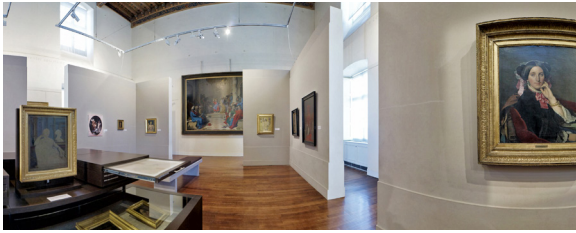


シャンポリオン

ジャン・フランソワ・シャンポリオンは1790年に観光スポット特選のひとつフィジャック（ロット県）に生まれました。彼の生家は現在、世界のエクリチュール（文字法）博物館 (Musée des Ecritures du Monde) として利用されていますが、これはさまざまな時代や文明の文字を対象にしたヨーロッパでただひとつの博物館です。隣接するエクリチュール（文字）広場には黒花崗岩の巨大な板石が設置されています。アメリカ人アーティストジョゼフ・コスース (Joseph Kosuth) の手になるこの作品は、シャンポリオンによるヒエログlyph解読の手がかりとなったロゼッタストーンを表しています。フィジャックは芸術と歴史の町でもあります。ぜひその公共建築物や、洗練された建築物の数々を堪能ください。



ジョン・ドミニク・アングル



アングルが生まれたモントーバン (Montauban) (タルン・エ・ガロンヌ県) の町は、ナショナル広場 (place Nationale) と二重回廊、14 世紀のボン・ヴュー橋 (Pont Vieux) などが有名です。タルン川沿いの旧司教館 (17 世紀) では、絵画やデッサンなどの作品が展示されています。彼の正確なまなざしは当時の社会を映し出し、とりわけブルジョワ層を中心とした肖像画が広く知られています。

ダルタニャン

ミディ・ピレネーが輩出したかすかすの偉人の中でもひときわ目を引くのが、ダルタニャンです。彼は 1615 年ごろリュピアク (Lupiac) 村近くカステルモール (Castelmor) 城 (ジェール県) でシャルル・ド・



バツ (Charles de Batz) として生まれました。20 歳になるとチャンス求めてパリに出、ダルタニャンを名乗ります。その冒険は、アレクサンドル・デュマの小説により世界的に知られるようになりましたが、彼の体現する炎のような情熱、勇気、忠誠心はこのアルマニャックの地、ガスコーニュ (Gascogne) 地方で現在まで受け継がれています。観光スポット特選オーシュ

の大階段の上には彼の像が鎮座しており、リュピアク村にはダルタニャンセンターが、テルム・ダルマニャック城 (château de Termes d'Armagnac) にはバナッシュ・ガスコン・アンティミスム博物館 (musée intimiste du Panache Gascon) があります。

ピエール・ポール・リケ

ピエール・ポール・リケ (1604 - 1680 年) が 17 世紀に構想を練ったミディ運河は、トゥールーズと地中海沿岸のセトをつなぐ傑出した建造物です。手作業で掘り進められた 240km の水路、工事期間 14 年、労働者数 12,000 名、土手の支えとして植樹された木 45,000 本、土木建設物 350 (橋、水門、水路橋)。こうした数字からは、計画がいかに壮大で複雑だったかがうかがえます。彼はもともとラングドック地方の徴税人でした。1681 年に開通したミディ運河は、オート・ガロンヌ県ルヴェルにあるサン・フェレ



オル湖からの配水を受けていますが、この湖自体もモンターニュ・ノワール (Montagne Noire) から取水しています。ソレーズ、ルヴェル、サン・フェレオルが一体となって、観光スポット特選のひとつに数えられています。広大なモンターニュ・ノワールの森の麓にあるソレーズ (タルン県) は、ベネディクト修道院とともに発展してきました。こ

の修道院はルイ 16 世治下では士官学校となり、19 世紀にはフランス屈指の知の殿堂となります。ここから数 km 先にあるルヴェルには、ピエール＝ポール・リケが住んだ家が保存されています。サン＝フェレオル湖はミディ運河の水源でもあり、2008 年にはミディ運河博物館がオープンしました。

19 世紀になると、ミディ運河はトゥールーズ下流でガロンヌ運河へとつながりました。これによって運河は大西洋までのびることになります。天才的発明の好例でもあり河川観光の花形でもあるミディ運河は、1996 年にユネスコ世界遺産に登録されています。

見どころ:

シャンポリオン・世界のエキリチュール (文字法) 博物館

この博物館にはテーマごとに 8 つの展示室があり、メソポタミアで生まれてからデジタル革命にいたるまで、文字のたどってきた歴史が示されています。3 千年前の絵文字が刻まれた粘土板、まじないの銘が記された陶製の杯、数か国語で書かれた 17 世紀の聖書など希少価値の高い作品が展示されています。文字に関する一点物あるいは複製のオブジェクトや資料など、収蔵品数は約 800 にのぼります。またルーヴル美術館、ケ・ブランリ美術館など外部の美術館からも展示品が貸し出されています。

見どころ:

アングル美術館

この美術館には画家ジャン・オーギュスト・ドミニク・アングルと彫刻家アントワヌ・ブールデル (Antoine Bourdelle) というモントーバンの生み出した 2 人の偉大な芸術家の作品が展示されています。2 階にある 6 つの展示室はアングルに割かれていて、古代やラファエルの影響がうかがえる大作のみでなく、若き日に画家ダヴィッドのアトリエで制作した作品や、一時滞在し館長も務めたローマのヴィラ・メディチで描いた作品なども目にすることができます。他にも習作や、彼の名を知らしめた肖像画のかすかすから、彼の足跡をたどることができます。

ルルドとベルナデット・スピルー (Bernadette Soubirous)

オート・ピレネー県ルルドはピレネー山脈に位置する人口 15,000 人の小さな町で、観光スポット特選のひとつでもあります。聖地として世界中に知られるこの町には、毎年、聖域やマッサビエル (Massabielle) の岩窟を目指す約 600 万人の人々が訪れます。この岩窟は 1858 年に聖母マリアがベルナデット・スピルーの前に出現した場所です。コスモポリタンで友好的な雰囲気と感動があふれるルルドは、世界へ向けて力強いメッセージを発信しています。



ノーマン・フォスター (Norman Foster)

ミシェル・ヴィルロジュー (Michel Virlojeux) 考案、イギリス人建築家ノーマン・フォスター設計、エファージュ社 (Eiffage) 建設のミヨー高架橋 (アヴェロン県) は観光スポット特選のひとつでもあり、2004 年 12 月の落成以来訪れる何十万人もの人々は、この前代未聞の偉業に感嘆せずにはいられません。タルン渓谷からのびるわずか7本の主塔に支えられたこの橋は、フランス南部のもっとも風光明媚な景観のひとつを彩る技術の結集でもあります。世界最長 (2.4km) かつ世界最高 (270m) の高架橋であり、もっとも高い柱はエッフェル塔を 20m 超す高さです。この橋を利用すればメリディエヌ高速道路 (A75) は、パリと地中海をつなぐもっとも短く・経済的かつ渋滞の少ない道路ということになります。一般用に整備された唯一のビューポイントには、毎年百万以上もの訪問客がやってきます。

ミヨー高架橋の円滑な交通には、ノーマン・フォスターが一役買っています。彼はハイトク建築を代表するひとりであり、国際的な大建築家として世界中で 300 を超える賞を受賞しています。



空のパイオニアたち

19 世紀、観光スポット特選のひとつであるトゥールーズ (オート・ガロンヌ県) は、空のパイオニアたちの活躍舞台でもありました。1855 年生まれのカレマン・アデル (Clément Ader) は地球の引力から解放された初めての人間でもあり、「飛行機 (アヴィオン)」という言葉の生みの親でもあります。20 世紀半ばのトゥールーズでは、サン・テグジュペリ (Saint-Exupéry) やメルモーズ (Mermoz) など伝説的なパイロットが活躍しました。そののち街は、アエロスペースパシアル (Aérospatiale) 社に牽引され、航空産業の花形としての地位を築きます。国立宇宙研究センターの本部もあり、超音速機コンコルドやアリアーン・ロケットが生み出されたのもこの街です。現在ではエアバス社も本社をおき、ヨーロッパ随一の航空産業中心地となっています。

エアバス社の組立てホールは一般公開されており、トゥールーズ観光の目玉として別格視されています。A330 や A340 の組立てがおこなわれるクレマン・アデル工場は、テニスコート 227 面分、パリの凱旋門 10 棟が収容できるほどの大きさです。世界最大の航空機 A380 を収容するラグアルデル (Lagardère) 工場はさらなる広さを誇っています。ロジェ・ベティユ (Roger Béteille) 工場では、新花形機 A350 の組立てがおこなわれています。バス見学ののち、こうした工場のいずれかで航空機の誕生に立ち会うことができます。また家族で訪れる方のために6歳から12歳までのお子様を対象としたツアーも組まれています。



見どころ: シテ・ド・レスパス (Cité de l'Espace)

研究者、宇宙飛行士、一般訪問者が行き交うこのテーマパークは、常に活気にあふれ、航空業界の最新の姿を映し出しています。宇宙開発を主題にした常設展示館は内容も外見も新装され、星を目指した人類の冒険が 2500m² にわたって展示されています。完璧なシナリオと舞台装置によるツアーは、打上げセンター、宇宙から見た地球、天気予報センター、太陽系、トレーニングセンター、天文台の6つのテーマやストーリーに沿って進んでいきます。



見どころ：

アエロスコピア (AEROSCOPIA)

ブラニャック (Blagnac) にあるアエロスコピアは、航空技術・科学に光を当てた博物館パークで、2015 年初めてオープンしました。世界の航空史とゆかりの深いこの地で、カラベル、コンコルド、スーパー・グッピー、A300B の4つの「名機」や、30 機以上の歴史的な航空機が展示されています。
www.aeroscopia-blagnac.fr マナトゥール社 (Manatour) がアエロスコピアツアーを組んでいて、エアバス工場 (A380、A350) 見学と組み合わせることも可能です (要予約)。

<http://www.manatour.fr>

ピック・デュ・ミディの科学者と「苦労人」たち

ピック・デュ・ミディ・ド・ピゴール (標高 2,877m、オート＝ピレネー県) はピレネー山脈の中でもっとも知名度の高い山のひとつです。国立自然保護地域および観光スポット特選の指定を受けており、屈指の天文台として一般公開もされています。もともと NASA がアポロ宇宙計画で月面撮影に利用したのが始まりですが、1880 年代に始まった建設事業は、近隣のカンパン谷の住民たちにとっては苦労の連続で、彼らは「ピックの苦労人たち」と呼ばれるようになります。ゴンドラが建設されるまでは、人間やラバが資材・設備を背負って危険な坂をのぼっていましたが、現在では観光客はゴンドラに乗って悠々と山頂へ向かうことができます。季節を問わず訪れることができ、博物館ではピック・デュ・ミディの歴史や工事、観測所での生活の様子などがわかりやすく説明されていて、毎年多くの人が訪れます。レストラン併設のパノラマテラスからは、東西 300km にわたって続く山々の壮大な景色を楽しむことができます。宿泊あるいは夜遅くまでの滞在も可能で、天体観測は忘れがたいひと時となるでしょう。空の透明度が高いため、ピック・デュ・ミディとその周辺は RICE (ダークスカイ保護区) の指定を受けています。

見どころ：

ピック・デュ・ミディ博物館

この博物館ではピック・デュ・ミディを舞台に繰り広げられてきた歴史が展示されており、天体観測や科学上の発見の他にも、天文台建設がいかに困難を伴ったかが紹介されています。代々の技術者や研究者が宿泊してきた部屋で一夜を過ごせば、更に感銘が深まるでしょう。いずれの部屋からでもピレネー山脈の絶景を見渡すことができます。また併設のレストランではピレネー地方の伝統料理を楽しむことができます。



ミディ・ピレネーのハイライト

リラクゼーションと温泉

オリュ・レ・バン (Aulus-les-Bains)、バニエール・ド・ビゴール (Bagnères-de-Bigorre)、バレージュ、リュス・サン・ソヴァール (Luz-Saint-Sauveur)、リュション、レクトゥール (Lectoure) など、フランス第4の温泉地方であるミディ・ピレネーには 17 の湯治場があり、ピレネー山脈やジェール県、アヴェロン県の絶好の環境の町に溶け込んでいます。温泉としての質の追及を続けるとともに技術面でも高いノウハウをもち、特に小児耳鼻咽喉科やリュウマチ、外傷性障害、肥満などの代謝障害に効能を発揮します。同時に独自の短期型温泉滞在も提案しております。



注目：温泉リラクゼーション施設

温泉事業が活発なミディ・ピレネーには、ピレネー山脈を中心に多くの温泉リラクゼーション施設があります。過去 10 年における地方レベルの大規模投資により、温泉リラクゼーションが発展、人気を得ています。

各温泉には独自の特徴があります。アリエージュ県アクス・レ・テルム (Aulus-les-Thermes) の**バン・デュ・クルブレ (Bains du Couloubret)** はピレネー山脈でもっとも高温の湯を利用していますし、オート＝ガロンヌ県の**エスパス・リュション・フォルム・エ・ビヤン・エートル (Espace Luchon Forme et Bien-Être)** には豪華なつくりの円形プールと、ヨーロッパ唯一の天然硫黄泉蒸気浴室が地下に設置されています。これは、硫黄を含んだ温泉水が地底から湧き出て岩壁を通りながらろ過される際に、38 度から 42 度の蒸気が生成される点を利用したものです。**観光スポット特選リュション**の温泉は既にガロ・ロマン期から利用されていましたが、18 世紀以降はリシュリュー枢機卿、ナポレオン3世、アレクサンドル・デュマ、ギュスターヴ・フロベールといった名だたる著名人たちが通う温泉街となりました。オート・ピレネー県ジェノス・ルダンビエル (Génos-Loudenvielle) 湖のほとりにある**バルネア (Balnéa)** では、世界のお風呂を楽しめます。エスパス・オンセン (Espace Onsen) と呼ばれる3つの露天風呂からは、スレート岩が敷かれた横にある日本庭園や、庭園と近代建築が織りなす眺めを楽しめます。オート・ピレネー県コートレの**バン・デュ・ロシェ (Bains du Rocher)**は、200m2 の屋外ラグーンを備えたユニークな施設です。ヨーロッパで唯一、高温の天然ガスを利用した温泉施設で、デトックス作用によりリュウマチに大きな効果を発揮します。アヴェロン県の**テルム・ド・克蘭サック (Thermes de Cransac)** はアカシアの森の中に浮かんでいるかのようなつくりです。ジェール県**テルム・ド・バルボタン (Thermes de Barbotan)** はローマ人が築いたものですが、独特の水質は何世紀にもわたってリュウマチや静脈障害に悩む人々を癒してきました。現在では温泉スパも完備しています。

更に詳しく知りたい方は、プレスリリース「ミディ・ピレネー：温泉」をご覧ください。

ガストロノミー

自然と人間がともに作り出すガストロノミーは、ミディ＝ピレネーの楽しみのひとつでもあり、食を楽しむ文化や生きる喜びを享受する考え方は多くの人々を魅了しています。フォアグラ、ロックフォール・チーズ、アルマニャック酒など数えきれないほどの特産物が、ミディ・ピレネーの豊かな食文化を世界へと発信しています。

ミディ・ピレネーの誇る食材といえば、何をおいても**フォアグラ**でしょう。フォアグラは農家や小規模生産者などの家族がつくるのが基本です。それぞれの生産者が伝統を守りつつ新しい手法にトライし、ガチョウやカモのフォアグラの新たな楽しみ方を提案しています。特にカモはマグレ（ささ身）のグリル、薄切の胸肉、凝ったコンフィ、香りの良いパテ、フリット、砂肝サラダなどさまざまな味わいがあります。

オー・ラングドック地方自然公園でつくられる**ラコーヌ (Lacaune)** のシャルキュトリ（ハムやソーセージなどの加工製品）はグルメに人気です。何世紀にもわたって伝えられてきた知恵が生かされた、ヘーゼルナッツの味わいをもつソーセージ、ソーシソン、ハムが絶品です。この地方の品種である**ガスコン黒豚**は、100%自然環境で飼育されており、まろやかな味わいのハムが有名です。

ミディ・ピレネーには数多くの郷土料理がありますが、中でも**ガルビュール (garbure)** は別格です。これはジャガイモ、キャベツ、タルブ産インゲン豆、豚のすね肉を使ったピレネーならではのスープです。**トゥールーズのカスレ (cassoulet)** もまた独特の逸品で、地元特産のアリコ・タルベ（インゲン豆）、ガチョウのコンフィ、豚のすね肉、皮つきソーセージをハーブやニンニク、ナツメグと一緒に煮込んだものです。じっくりと煮込んだカスレはテラコッタの鉢皿で供されます。アヴェロン県ではトム・

フレッシュチーズを加熱して長く引きながら作る**アリゴ (aligot)** や、塩漬けでない干鰯を使った**エストフィナド (estofinado)** をご賞味いただけます。

母乳で育てられた**ケルシー**の子羊、放し飼いで育てられる**ジェール**の家禽、小規模生産の**オーブラック**牛、**ガスコン**牛の香り高い焼肉、母牛に育てられた**アヴェロン**や**セガラ (Ségala)** の仔牛も外せません。ミディ・ピレネーの食肉生産者は、トレーサビリティ、天然飼料、丁寧な飼育を保証しています。

チーズに目を向ければ、ヤギ、牛、羊とさまざまなチーズが楽しめます。長い時間をかけて熟成する**ロックフォール**、天然洞窟でつくられる**ブルー・ド・コース (Bleu des Causses)**、丸くてクリーミーな**ロカマドゥール**、アリエージュ県の**トム・デ・ピレネー (tomme des Pyrénées)**、オーブラックに伝わる伝統製法でつくられる**フロマージュ・ド・ライヨール (fromage de Laguiole)** などが挙げられます。



フォーカス：

ミディ・ピレネーの3つのアペリティフ

プース・ラピエール (Pousse-Rapière) はアルマニャック・リキュール酒とホワイต์スパークリングワインを使ったジェール県のカクテル**フロック・ド・ガスコーニュ (Floc de Gascogne)** はフレッシュなブドウ果汁と若いアルマニャック酒を使ったもので、白でも赤でもいただけます。4世紀も前から飲まれているお酒ですが、現在ではAOPに指定され、同時にきわめて厳格なボトルごとの検査も受けなければなりません。アリエージュ県では**イボクラス (Hypocras)** をご賞味ください。中世からつくられているこのお酒は、花などの植物やスパイスを琥珀色の甘口ワインに漬けたものです。

マルシェ・オ・グラ (marchés aux gras)

ジュール県の村々では 11 月から3月にかけてマルシェ・オ・グラというフランスでは他にない例のないマルシェが開かれます。マルシェは、丸ごとのフォアグラや「ドモワゼル（お嬢さん）」と呼ばれるカモのガラを買いに求める人で活気にあふれています。

ワイン

AOP カオール、ガイヤツグ (Gaillac)、フロントン (Fronton)、マディラン (Madiran)、マルシアック……。ミディ・ピレネーの食卓にワインは欠かせません。こうした良質なワインの起源ははるか古代にまでさかのぼりますが、独特のアロマ、色調、きめの細かさなどは人々をひきつけてやみません。IGP 制度（保護地理的表示）においてもミディ・ピレネーの存在感は大きく、コート・ド・サン・モン (Côtes de St-Mont)、コート・ド・ブリュロワ (Côtes de Brulhois)、ヴァン・ダントレグ・エ・デュ・フェル (vins d'Entraygues et du Fel)、ヴァン・デスタン (vins d'Estaing)、コート・ド・ミヨー (Côtes de Millau) など、いずれも優れた産地が名を連ねています。この他にもワインと太陽の地ミディ・ピレネーでは優れたワインが生産されています。中でもデスティナシオン・カオール・マルベック (Destination Cahors – Malbec) (AOP カオール) とペイ・デ・バステード・エ・ヴィニョブル・デュ・ガイヤツグ (Pays des bastides et vignoble du Gaillac) (AOP ガイヤツグ) の2つの産地は「ワインツーリズム (Vignobles & Découvertes)」認証を得ています。

更に詳しく知りたい方は、プレスリリース「ミディ・ピレネーのワイン生産地、テロワールと人」をご覧ください。

ミディ・ピレネーの星付きレストラン

秀逸な食文化とシェフたちはミディ・ピレネーの自慢です。中でもライヨールのミシェル・ブラ (Michel Bras) は、常にミシュランガイドに高ランクインしています。約 20 軒のミシュランの星付きレストランをはじめとして、クリエイティブにふれる多くのシェフが、ミディ・ピレネーで活躍しています。

更に詳しく知りたい方は、プレスリリース「ミディ・ピレネーのガストロノミー：星付きシェフたちのポートレート」をご覧ください。

スミレ

19 世紀からスミレ栽培が盛んなトゥールーズには、トゥールーズのスミレという固有品種があります。二重花弁でぼてりとしていて、薄紫色、繊細で柔らかな香りをもつ花です。トゥールーズならではのこのスミレは冬咲きで、スミレ祭もあるほど。コスメ石鹸やオー・ド・トワレ) や食用 (キャンディ、キャラメル、リキュール) にも使われています。



シスカ (Sisqa)

シスカはミディ・ピレネー地方の高級食材国際展で、2002 年から毎年トゥールーズで開催され、良質な食材を求める人々が数多く来場します。ミディ・ピレネー最大の見本市で、200 の高級食材が展示され、うち 120 に品質・産地識別マーク SIQO が付いています。



ミディ・ピレネーはデザートも充実しています。ガトー・ア・ラ・ブロッシュ (gâteau à la broche) は暖炉の火で串を回しながら焼かれるお菓子。パステス・ガスコン (pastis gascon) はこれ以上ないくらい薄く延ばした生地を折ってつくるので、熟練の腕が必要です。ケルシーのメロンやレクトゥールのメロンは甘くてとろけるような食感です。熟すと同時に収穫され、夏の間中店頭に並びます。フルーツといえばモワサックのシャスラ (chasselas de Moissac)。これはフランスのぶどうの中でも大変名高く、フルーツとしては珍しく AOP 認証を受けています。

黒トリュフとサフラン：ミディ・ピレネーのスターたち

ロット県のケルシーの香り豊かな黒トリュフと、スパイスとして使われるサフランは、繊細で希少なことから贅沢品として知られています。

フォーカス：アルマニャック

アルマニャックは、フランス南西部で古くからつくられているワインベースのオー・ド・ヴィで、ガスコーニュ地方とは切っても切れない縁があります。アルマニャック独特のテロワール (土壌) と製造法が評価され、既に 1936 年には厳格な規定で知られる AOP 認証を受けています。アルマニャックは、白ワインを蒸留したのち何年もの間オーク樽で熟成してから販売されます。コニャックは伝統的な「二度蒸留法」で蒸留されますが、アルマニャックではアルマニャック蒸留器と呼ばれる昔ながらの特殊蒸留器を用います。家族経営の生産者が多く、手作りで少量しか生産しません。そうした生産者がこの地を訪れる人々に、伝統的な飲み方を伝えています。



モノづくり

ミディ・ピレネーではモノづくりも盛んで、ノウハウを生かして一点一点つくられる工芸品が国内外の人気を集めています。

ライヨール・ナイフは、アヴェロン県北部のライヨール村でしかつくられていないために伝説もあるほどで、フランスが誇る伝説的工芸品です。この鍛造工場は、ライヨール・ナイフを愛するデザイナー、フィリップ・スタルク (Philippe Starck) の手によるものです。

天然角の櫛

アリエージュの天然角の櫛はケラチンが豊富で髪に優しく、ラヴラネ (Lavelanet) 村近くの小さな村で、13 世紀から伝わる方法でつくられています。

マルトル・トロザーヌの陶器

オート・ガロンヌ県のマルトル・トロザーヌ (Martres-Tolosane) 村では、18 世紀から陶器生産がおこなわれています。村のアトリエで、ホーロー地に手書きで絵付けが施され、繊細で丈夫な陶器ができあがっていきます。



アヴェロン県南部のミヨー村は皮手袋の名産地です。ミヨーの手袋は皮なめしと手袋生産技術の結晶で、その起源は 12 世紀にさかのぼります。ミヨーのコース社の手袋はジャクリン・ケネディやスティーヴ・マックイーンが愛用したことも知られています。最高の仕立てとクリエイティビティが人気のコース社は、技術と現代性がかわれてパリやニューヨークの名だたるメゾンにも採用されています。2012 年にはシャネル社の傘下にはいり、マドンナやカイリー・ミノーグの手を飾っています。ファーブル社もまた、ミヨー村で最高級の手袋を作り続けています。

フォーカス：コルド・シュル・シエルの職人たち

タルン県アルビ近く、はるか昔に建てられた要塞都市が連なる中にひととき謎めいた都市があります。1222 年に建設されたこの都市はゴシック建築の粋でもあり、カタリ派の防衛拠点でもありました。この都市コルド・シュル・シエルは観光スポット特選のひとつですが、毛織物、絹、皮革産業で一躍富を築きあげました。現在では 13・14 世紀の絢爛な建物やゴシック様式の館にその名残が見られますが、これらは強固な要塞によって守られていました。急な坂が続く道にはたくさんのアトリエが並んでいて、一年中職人やアーティストたちが作業を続けています。

芸術品・工芸品周遊コース

芸術品・工芸品街道 (Route des Métiers d'Art et de l'Artisanat) 沿いには 150 人の工芸職人たちが登録されています。県ごとに複数のルートがあり、アトリエ見学が可能です。

タルン・エ・ガロンヌ県の小さな村コサード (Caussade) の帽子も、高級クチュリエたちに愛されています。パナマ帽、カノティエ帽、カスケット帽、キャブリン帽などさまざまな帽子が 1857 年から作られ続けています。コサード村はフランスでも有数の帽子の村として知られています。

ルヴェルの高級家具は、セイヨウザクラ、オーク、紫檀、レモンの木などの木材からつくられています。オート＝ガロンヌ県の要塞都市ルヴェルでは 19 世紀以降家具師やマルケトリ (木材細工技術) 職人、塗師、織師など数十人の手により、ルイ 14 世様式、15 世様式、帝政様式などの家具の複製を世に送り出してきました。希少な木材を用いた家具やルヴェルのマルケトリは、アメリカやアラブ首長国連邦にまで輸出されています。



フォーカス：パステル

トゥールーズの瀟洒な建築群は 16 世紀の裕福な商人たちの遺産です。彼らはパステル商売で財を築きあげました。黄色い花を咲かせる植物パステルで染められた布は、深い青色に変身します。これがトゥールーズに富をもたらしたのです。パステルを栽培していたアルビ、トゥールーズ、カルカソンヌ (Carcassonne) の三角地帯は、コカーニュ (パステルの葉を粉碎し、乾燥して丸い玉に固めたもの) の一大産地として名を馳せました。トゥールーズ南部のローラゲ (Lauragais) 村の景色にも、タルン県のマグラン (Magrin) の宮殿美術館にも、ジェール県レクトゥール・ブルーのアトリエ (atelier Bleu de Lectoure) にも、パステルの記憶が刻まれています。レクトゥール・ブルーのアトリエは、世界で唯一、現在もこの魔法の染料を利用しているアトリエです。

パステルに特化した施設：「テール・ド・パステル (Terre de Pastel)」はトゥールーズにオープンした新しい施設で、美術館でありながらリラクゼーションなども行われています。ショップやレストランも併設され、パステルのあらゆる楽しみ方を提案しています。

更に詳しく知りたい方は、プレス資料「ミディ・ピレネーの3つの花：サフラン、パステル、スマレ」をご覧ください。

大きなフェスティバル

ミディ・ピレネーは積極的にアーティストや、多数の大規模な文化イベントを支援しています。国内外で人気を集める約 100 のフェスティバルのうちから、いくつかをご紹介します。

長年にわたってジャズ愛好者に人気のスイヤック・アン・ジャズ (Souillac en Jazz) やジャズ・ア・モンターバン (Jazz à Montauban) では、町中がスイングと熱気に包まれます。モンターバンではフレンチ・ミュージックも盛んで、未発掘のシンガーから大物までが集うアロール・シャント！ (Alors... chante !) も開催されています。

トゥールーズでは、リオ・ロコが5日間にわたって開催されます。ガロンヌ川に面したプレーリー・デ・フィルトル (prairie des Filitres) 公園内で毎年行われるこのフェスティバルには、世界中からミュージシャンが集います。



全くこれとは趣を異にしているのがサン＝セレ歌曲フェスティバル (Festival Lyrique de Saint-Céré) で、毎年意欲的なプログラムが発表されます。コマンジュ国際音楽フェスティバル (Festival du Comminges) やサン・リジエクラシック音楽フェスティバル (Festival de Saint-Lizier) では、観光スポット特選サン・ベルトラン・ド・コマンジュ大聖堂やサン・リジエの地で、素晴らしいクラシック音楽が演奏され、その選曲、解釈の質の高さは高い評価を受けています。シルヴァネス教会音楽フェスティバルは宗教音楽シーンの頂点ともいえるでしょう。トゥールーズでもクラシック音楽は盛んで、ピアノ・オ・ジャコバンフェスティバル (Piano aux Jacobins) はピアノに特化したフランス随一のフェスティバルです。トゥールーズ国際オルガンフェスティバル (festival international Toulouse les Orgues) では華やかながらも気鋭のプログラムが組まれていて、トゥールーズとそれ以外の町で連日交代で演奏が行われます。映像やコスチューム、歴史上の人物や光を駆使して、在りし日の思い出をよみがえらせる催しもあります。ガロンヌ運河の港に面したヴァランス・ダジャン (Valence d'Agen) ではオ・フィル・ド・ロー、ユヌ・ヒストワール (水の流れ、ある歴史) (Au fil de l'eau, une histoire) が開催されます。これは、300 人以上の俳優、華やかな花火、舞台装置、台本が動員されるショーです。フラニャック (Flagnac) では、イエール、アン・ヴィラージュ (昨日、ある村) (Hier, un village) が野外劇場で開催されます。俳優と特殊効果が織りなすこのイベントは、ルエルグ地方のこの村が 20 世紀初頭に経験した喜びや悲しみを再現します。コルド・シュル・シエルでは鷹フェスティバル (Fêtes du Grand Fauconnier) が開催され、1222 年建造のこの城塞都市の心意気を、パレードや通りでおこなわれるショー、アーティストによるパフォーマンスであらわしています。中世といえば、カタリ派の伝説ショー (La légende des âmes cathares) も外せません。ガストン・フェピュス (Gaston Fébus) が暮らした城館で、先史時代からフォワ伯爵の支配、フランス革命にいたるまでのアリエージュの豊かな歴史が再現されます。

フォーカス：ジャズ・イン・マルシアック (Jazz in Marciac)

観光スポット特選マルシアックはジェール県にある 13 世紀の城塞都市で、ガスコーニュ地方、そして南西地方の中心に位置しています。ヨーロッパ随一のジャズ都市としても有名で、ここで開催されるジャズ・フェスティバルはプログラムの質の高さと親しみやすい雰囲気が高い評価を得ています。会期中はテントや町の中心にある広場で、多くのコンサートが日夜を問わず開かれています。現在では、新築されたアストラダ公会堂 (Astrada) でも一年中ジャズプログラムが開催されていて、新しいアーティストとの出会い、再会、初公開コンサートなどが満載、誰もが楽しむことができます。



Comité Régional du Tourisme
15 rue Rivals - CS 78543
31685 Toulouse cedex 6
Tél. : 05 61 13 55 21

www.tourisme-midi-pyrenees.com

Share with us



CRT Midi-Pyrénées - D. Viet / © Airbus / © RCR architectures - musée Soulages - Rodez / © C. Picot /

LANGUEDOC
ROUSSILLON
LA RÉGION MIDI
PYRÉNÉES

Action réalisée par le Comité Régional
du Tourisme Midi-Pyrénées.

www.tourisme-midi-pyrenees.com